

2004年1月16日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-5614-1078

バイオ関連市場調査を実施

2010年、バイオビジネス市場は1兆1,170億円と2003年から56%成長すると予測

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、バイオ事業の代表的企業51社の実態と戦略を調査した。今回の調査は、バイオ事業を研究支援市場と医療市場に限定した。研究支援市場では、解析機器・試薬、受託サービス、バイオインフォマティクスの3品目、医療市場では遺伝子診断、モノクローナル抗体診断薬、バイオ医薬について市場規模を集計し、その将来予測を行なった。

このほどその結果を報告書「バイオ関連企業要覧2003」(A4判 123ページ)にまとめた。

<はじめに>

バイオ産業の基礎となる分子生物学は80年代末以降大きく飛躍を遂げた。「ヒトゲノム」解析は30億文字にのぼる「ヒトゲノム」を米国セレーラ社が解析し終えた。今後はゲノム解析の応用に移る。遺伝子が作る蛋白質が、人体内でどんな働きをするのかを解明し病気の治療や創薬に役立てる研究がいつそ盛んになり、遺伝子の個人差を調べ、薬の種類や量を定める「テーラーメイド医療」も実現するであろう。日本の研究は水準が高くすそ野も広いが、ビジネス面の立ち上がりが遅れている。

2003年市場の現状

研究支援市場は2003年見込2,092億円で、受託サービス、バイオインフォマティクス市場は前年比10%以上の伸びを示している。解析機器・試薬市場はDNAシーケンサー(遺伝子配列解析装置)市場の落ち込みにより2003年は前年比5%の伸びに留まっている。全体としては前年比10%弱の伸びは示しているが市場は落ち着きつつある。この市場は大型プロジェクト(遺伝子多型解析などの国家プロジェクト)が一段落したため、全体として伸び率は減少傾向にある。特に解析機器 試薬市場の伸び率の低下が目立つ。

*解析機器・試薬市場

市場の牽引役であったDNAシーケンサーの伸び率が減少する。大幅な伸びが期待されたDNAチップ、ラブオンチップ(遺伝子、蛋白解析用電気泳動システムをマイクロ化、オート化したシステム)が小幅に留まる見込みのためである。装置で伸びているのは蛋白分析を行う質量分析装置である。

試薬で伸びているのは遺伝子発現抑制システムとして現在注目されているRNAi(特定の遺伝子の蛋白発現を抑制することにより、遺伝子の機能解析を行う方法)と細胞シグナル伝達関連試薬である。

*バイオインフォマティクス市場(データベース、ソフトウェアを使用した遺伝子、蛋白解析の方法)

ハード市場は減少傾向にあり、ソフトウェア、それに伴うシステム開発の市場も減速しつつあるため、各社ともデータベース、Webサービス、受託解析に注力している。

*受託サービス市場

主力のオリゴ合成の伸びは価格競争により減少傾向にあり、遺伝子のシーケンスも同様な傾向にある。そのため各社ともDNAチップなどの遺伝子発現解析、蛋白合成、蛋白解析に注力している。また解析機器企業の自社のシステムを使用した受託サービスへの新規参入が目立つ。

医療市場は新製品の発売がなく低迷していたが、2003年見込では5,060億円で、メイン市場であるバイオ医薬品の分子標的治療薬や抗体医薬が伸びたため前年比10%近い伸びを示した。

*バイオ医薬品

新製品がなく低迷していたが、分子標的治療薬「イレッサ」「ハーセプチン」「リツキサン」、抗体医薬「ノレメケード」の伸びによって2003年は10%近い伸びが見込まれている。

*モノクローナル抗体診断薬

免疫血清検査市場がメイン市場で、保険点数の引き下げなどで低迷している。2002年以降伸び率が増加したのは、インフルエンザ抗原キットが伸びたためである。

*遺伝子診断

2001年に日赤がHCV(C型肝炎ウイルス)、HBV(B型肝炎ウイルス)、HIV(エイズウイルス)の3項目をPCR(遺伝子増幅法のひとつ)法で実施することになったため、大きな伸びを示したが、その後は新規項目の上市がなく低迷している。

バイオ事業の将来市場

研究支援市場は2010年予測3,070億円で2003年見込みから47%市場が拡大すると予測する。

* 解析機器・試薬市場

DNAシーケンサーによって大きく伸びてきた市場であるが、普及の限界に来ており今後の伸びは期待出来ない。またDNAチップ、ラブオンチップも市場全体を牽引できるほどの伸びはない。蛋白解析の質量分析装置はある程度伸びるが、今後蛋白分野で画期的なシステムの開発がない限り市場は5%程度の伸びに留まると思われる。

* バイオインフォマティクス

ソフトウェア、システム開発、データベース、Webサービス、解析受託を中心に今後2~3年は8%前後の伸びは期待出来るが、ターゲットとなる製薬企業が限定されているため、2007年以後は5%程度の伸びになると予測される。

* 受託サービス

遺伝子発現解析、蛋白解析を中心に今後2~3年はまだ伸びると思われるが、需要の見込める多型解析(塩基の差異によるヒトの個性を解析するもので、薬剤感受性、生活習慣病の予防などの応用が期待されている。)が本格的にならないこと、メインターゲットとなる製薬企業が限定されるため、2007年以後は5~6%の伸びになると推測した。

医療市場は2010年予測8,100億円で、2003年見込みから60%市場が拡大すると予測する。

* バイオ医薬

本格的なゲノム創薬にはまだ時間が掛かると思われるが、抗体医薬、分子標的治療薬を中心に今後2~3年は10%以上の伸びが期待出来る。

* モノクローナル抗体診断薬

メインの市場である、免疫血清検査市場が伸びないため、今後の市場は微増と思われる。

* 遺伝子診断市場

既存項目の伸びは期待出来ないが、感染症、癌などを中心とした薬剤感受性検査の市場が少しずつ立ち上がるため、ある程度の市場の伸びは期待出来る。

調査報告書の構成

この報告書は3章構成。

第1章は、バイオビジネス市場の現状をまとめた。2000年から、2003年までの市場規模推移を分析して、分野別・企業別の現状をまとめた。企業別売上とその2003年の伸び率を示した。

第2章では、バイオビジネス市場の将来についてまとめ、企業別の今後のバイオ事業戦略をまとめた。

第3章では、研究支援市場の代表的企業32社と医療市場の代表的企業19社のケーススタディを各企業2~3ページで解説した。

調査方法

当社専門調査員によるバイオ市場の代表的企業51社への面接取材による情報収集をベースに、各種公開データ、既刊資料を使用して分析した。

調査時期：2003年9月~11月

以上

資料タイトル：「バイオ関連企業要覧2003」

体 裁：A4判 (123頁)

価 格：100,000円(105,000円税込み) 105,000円(CD-Rセット) (110,250円税込み)

調査編集 富士経済 東京マーケティング本部 メディカルグループ TEL 03-3664-5831

発行所 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F Kビル

TEL 03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165

e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>